須坂市教育委員会９月定例会 会議録

１　日　時　2025年９月20日（火）午後２時00分 ～３時４５分

２　場　所　第四委員会室

３　出席した委員　教育長　勝山　幸則
教育長職務代理者　二ノ宮邦彦
教育委員　村石　忍
教育委員　湯本　理恵
教育委員　青木　十郎

４　説明のため出席した職員

教育次長	中村　健司
学校教育課長	若林　久人
子ども課長	山岸　和幸
子ども課長補佐	鈴木　洋一
人権同和教育課長	高橋　克彦
文化スポーツ課長	寺沢　隆宏
生涯学習推進課長	寺澤　勝志
学校給食センター所長	村石　孝子
主任指導主事	後藤　昭彦
指導主事	北村　雅
指導主事	松木　智子
指導主事	西原　秀明
指導主事	宮崎　健
指導主事	松澤　裕子
地域連携コーディネーター	井上　陽介

５　事務局出席職員

庶務係長	宮崎　裕喜
庶務係	返町　美里

６　本日の会議に付した事項

（１）　学校等の状況報告について

（「須坂通学合宿2025」」報告について）

（２）　議題

（３）　協議

キャリア教育について　青木十郎　教育委員

（４）　一般行政報告

ア　教育長出席行事の報告について

イ　行事共催等承認の報告について

ウ　情報公開制度運用状況

エ　９月定例市議会一般質問報告について

（５）　その他

ア　教育委員会行事予定について

イ　須坂市教育委員会主催・共催大会等への出席について

ウ　2025年度 第10回子どもスポーツフェスティバル（ドッヂビー交流会）について

エ　第37回 信州須坂ランニングフェスについて

オ　豊丘小学校の統廃合をめぐって、年度内決定の見直しを求める請願

カ　令和７年度　特別支援学校訪問計画

キ　須坂支援学校プレイルーム（多目的ホール）完成お祝いの会について

ク　その他

教育長が開会を宣した。

（１）　学校等の状況報告について

最初に地域連携コーディネーターより「須坂通学合宿2025」の報告があった。

・今年度は７月14日から19日の５泊６日で実施。
・参加者については小学生27名、須坂高校から13名、須坂東高校から10名の合計50名となった。
・昨年度と比較して高校生の参加者が増え、特に男子高校生が増えたことが大きかった。
・小学生の参加者については昨年度４年生として参加した児童が今年度も参加するという形が一番多かった。リピート率としては７、８割だった。高校生も昨年度参加してくれた生徒が今年度も参加してくれるということが多く、昨年度の内容が児童生徒にとって良かったということがわかった。
・合宿の内容としては昨年度と変わらず、小学生と高校生が公民館で一週間親から自立した生活を送る、というもの。
・今年度で２年目となったが、改善・反省点としては、高校生が昨年度に引き続いての参加が多かったため、昨年度の反省点をすでに改善している状態となってしまい、今年度参加の高校生の成長につなげることができなかった。
・ただ、昨年度の反省点を高校生がしっかりと考えてくれたおかげで安全性については非常に高く、小学生の怪我やトラブルもなく無事に終えることができた。

引き続き地域連携コーディネーターより須坂ユースセンターについて説明があった。
・８月より須坂市立町に「須坂ユースセンター」を設置した。高校生の勉強施設として「coto2」を設置したが、それとは別に居場所づくりや交流を目的として設置。
・ユースセンターにはユースワーカーがスタッフとして常駐し、子どもたちの悩みや困りごとに対してサポートをする。
・現在試運転として稼働しているが、今後中学校の校長会等でも周知し、中学生にも活用してほしいと考えている。

委員：
・昨年聞いたところでは男子生徒の参加が少ないと感じていたが、今年度は高校生の男子生徒が増えたということで、活躍はしていたのか。

地域連携コーディネーター：

・サッカーやドッジボールなどのレクリエーションをするにあたって、男子児童は男子生徒に相手をしてもらえるというのが非常に楽しそうで、よかったと感じている。

委員：

・キャリア教育的にも非常にユニークな活動であり実践であると感じる。学校や地域の方にどのようなＰＲをしてきたのか。

地域連携コーディネーター：

・各高校の校長先生にお話しして、そこからさらに小学校の校長先生に話を広げ、会議を重ねて実現に至った。その際地域の方への周知については学校が非常に協力的であり、ＰＴＡ総会や地区の地域づくり推進委員会などに参加させていただき、直接話をする機会をいただいた。

委員：

・また別の質問となるが、現在「須坂ユースセンター」について中学生を対象にという話があったが、通学合宿で小学生と高校生、大学生とつなげたように、中学生と大学生をつなげるなどの構想はあるのか。

地域連携コーディネーター：

・明確にどうなってほしいということはないが、大学生もサポートスタッフとして入ってもらうつもりなので、中学生や高校生が大学生の姿を見て憧れを持ったり、中高大で連携していったりできればより良い。須坂市は大学のキャンパスがないので接点が少ないとは思っているが、ユースセンターの存在でよりつながりを強めたい。大学生が入ってくると市としてもできることが増えるし、須坂市に興味を持って関わってもらうきっかけになればいいと感じている。

教育長：

・先日子ども課の青少年育成の研修会へ参加したが、やはり子どもたちが悩みをどこへ相談したらいいのかわからないということが問題となっていた。そういった意味でユースセンターが役割をもって子どもたちの間で活かされていけばいいと感じる。実践を続けていただいて、また報告いただきたい。

次に学校等の状況報告について教育長が説明を求め、主任指導主事が説明した。

・９月１日現在小学校５名増、中学校１名減。
・学校事故に関しては今年度現在までで30件報告をいただいている。
・不登校による欠席状況については８月末現在の不登校者数として、小学校が20名、中学校は52名となっている。
・いじめに関する調査の６月度の結果がまとまった。いじめ問題で大切なのはいじめの数を減らすというより、いじめの見逃しをなくすという視点。
・いじめの定義として心身の苦痛を感じているものであればすべて「いじめ」に該当する。１日のうちでいじめの件数が膨大な数となって上がってきても全く不思議ではない。認知は簡単になるが、学校や市教委として一番大切にしていきたいのは「いじめを減らす」ということより「いじめの事案を見逃さない」ことである。
・以上のことをふまえていじめに関する調査結果を見直してみると、「あなたはいじめられたことがありますか」という質問の回答が小学生で18%、中学生だと２．３％となっており、非常に少ない。
・いじめに対する定義も確認しているが、いじめの調査が形骸化していないか再度確認や見直しをすべきと感じる。11月調査については質問の文言を変えて調査をする予定。

委員：
・いじめの件について、小学生のときに言われたことが大人になってもずっと心の傷として残るということがある。11月の調査に際してはぜひ文言を変えて実施してほしい。その結果を見て今後どんな教育をしていくべきかを考えていく時ではないかと感じている。

主任指導主事：
・承知した。文言を変更することで「いじめ」としてとらえられる事案は増えると思われるが、増えていいと考えている。その対応をきちんと考えていきたい。

委員：
・いじめかどうかという判断に長い時間を費やすよりも、不快だと感じればいじめであり、それをどうしていくかを考えることに時間を費やせるようになるというのは保護者からしても非常に大きな改革であると感じられる。数字が一時的に上がったとしても「いじめ」の見方、とらえ方を変えたという理解をしたい。

（２）　議題
なし。

（３）　協議
キャリア教育について　青木十郎　教育委員
青木委員からキャリア教育についての説明があった。
・キャリア教育について、教研集会で助言者としてキャリア教育の在り方について提起させていただいた。
・学校における「キャリア教育」と企業における「キャリア教育」は内容が違っているとは思うが、須坂市の方向性について示していくべきと感じた。
・須坂市教育委員会として現在様々な課題に取り組んでいるが、キャリア教育が後回しになっている状況ではよくないと感じている。生涯学習という意味でキャリア教育をとらえ、様々なことと関連付けて見方を変えていくということも必要と感じる。

教育長：
・各課でさまざまな課題に向き合っていると思うが、どのような目標へ向かっていくのか、またそれが可視化できるものなのかどうかも含めて、今現在の課題などを共有できるといい。

教育次長：

・ここにいるメンバーが同じ目標に向かって日々の業務にどう取り組んでいくかが重要と思う。総合計画や教育大綱もそれに合わせて刷新していくタイミングと思うため、青木委員からいただいた視点を反映していくことは可能と感じる。

・これから教育委員会でそういった議論をしていきたい。いろんな意見をいただきながら同じ方向を見て、成果が上がるような取り組みをしていきたい。

文化スポーツ課長：

・行政改革の一環で人材育成をやっていたこともあるが、すぐに大きく成果が出るものではない。継続してやっていくことが必要と感じるが、市としても職員の社会人基礎力としてキャリア教育の流れは必要かと考える。

委員：

・先日食育で小学校に行かせていただいたが、給食・食育のほかにもスポーツを通しての教育、地域を知る教育など切り口がいろいろある。人権教育や生涯教育を含めていろいろなことできちんとターゲットや方向性を決めていく必要があると感じた。

教育長：

・今後の教育の中で英語教育やグローバル教育があるが、方向性はあるのか。

指導主事：

・数値的に把握するのならば、客観的に見ることは可能ではある。だが英語を話してみたい、人に伝わった、面白い、コミュニケーションを取りたいなど、点数では出てこない見えない学力というものを英語教育の中に盛り込んでいくことが重要であり、そういったものを大切にすることが結局キャリア教育につながっていくのではないかと考える。

教育長：

・現在の教育は「全人教育」で、要するに社会人を育てていくような目標はあるが、漠然としている。ターゲットを決めてやろうとすると強制になってしまう難しさもある。教育課程を学校で決める際に、市教委でどんな形でサポートできるのかを考えることが必要。

（４）　一般行政報告

ア　教育長出席行事の報告について

教育長が説明した。

イ　行事共催等承認の報告について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

新規が１件。不承認について１件。

ウ　情報公開制度運用状況

教育長が説明を求め、子ども課長が説明した。

エ　９月定例市議会一般質問報告について

教育長が説明を求め、教育次長が説明した。

（５）　その他

ア　教育委員会行事予定について

教育長が説明を求め、各課長が説明した。

イ　須坂市教育委員会主催・共催大会等への出席について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

ウ　2025年度 第10回子どもスポーツフェスティバル（ドッヂビー交流会）について

教育長が説明を求め、子ども課長が説明した。

エ　第37回 信州須坂ランニングフェスについて

教育長が説明を求め、文化スポーツ課長が説明した。

オ　豊丘小学校の統廃合をめぐって、年度内決定の見直しを求める請願

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

カ　令和７年度　特別支援学校訪問計画
教育長が説明を求め、指導主事が説明した。

キ　須坂支援学校プレイルーム（多目的ホール）完成お祝いの会について
教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

ク　その他
なし。

教育長が閉会を宣した。